

舞鶴海兵団入団から復員までの思い出

横山 秀治（大正 12 年生まれ）

五箇条御誓文

- 一、軍人は忠義を尽すを本分とすべし
- 一、軍人は礼儀を正しくすべし
- 一、軍人は武勇を尚ぶべし
- 一、軍人は信義を重んずべし
- 一、軍人は質素を旨とすべし

私は昭和 18 年 5 月の徴兵検査に甲種合格の結果海軍と命ぜられ、19 年 5 月 15 日に入団との事。14 日 11 時頃高田駅を出発、15 日朝舞鶴に到着、海兵団より出迎えの兵士の指示によって団内の第 4 分隊にて適性検査を受け、私は水兵に命ぜられ、25 分隊の 10 教班に入班。1 教班班長共に 25 名、早速班長の指導により舎内見学。16 日より教習始まり、手旗信号、カッタこぎ等、時には陸軍の訓練も受け、これらを繰り返す、かけ足で兵舎等何周も廻り、体力づくりに専念の毎日であった。

一番思い出に残るのは吊床、馴れるまでは寝付が悪く、寝返りをするとゆれて、それを水兵長がいきなり、貴様なにをしているだと、吊床を足のほうから床に落とされ大変でした。1 週間程よく眠られなかった。

また、一日中の教習の中に悪い所があると 24 名全員に海軍精神注入棒という棒で「両手上げ、尻に力を入れ」の号令により、思っきり注入棒でたたかれ、風呂に入っても腰かけられない程内出血で苦労しました。

また、食事当番は 4 人 1 組で、一度飯と味噌汁と反対に付け、班長に「今日当番、起立」4 人立ち、次に「全員起立」と命令、向合い同士がピンタのたたき合い、命令により飯を食べることが出来ました。

また、手旗信号と五箇条の御誓文の復習、これ読めない者は兵舎 2 周でようやく飯を食べることが出来る。

また、海兵団の 1 キロメートル位はなれた所に向島という所までカッタの競争、右 12 人、左 12 人、24 人が一心同体にならないと前進が出来ない。幸いにして 10 教班はいつも上位になり、班長よりほめられ、24 人が笑顔、こんな時位でした。

入団して 2 か月、団内教育を終了、19 年 7 月中旬、九州の宮崎海軍航空基地に実習兵として命令、基地にて整地等種々な作業、淋しい事に飛行機は何機もなく、全く力が落ちました。

基地に 3 か月くらいでまた移動命令、鹿児島島の海軍飛行基地へと移動、ここで桜島を見ながら前基と同様な仕事と時々我が国の飛行機が 2 機 3 機と桜島を旋回しながら種子島方面と飛び立つのが見られる程度。夜寝る前には必ず水兵長の訓示の後、注入棒で 5、6 回たたかれ、今でも忘れ

ることが出来ません。

この基地に3か月半、11月25日、舞鶴海団四分隊への命令。4分隊に3日後、横須賀のドックで修理中の特務艦「神威」に乗艦命ずるとの事。19年12月15日、横須賀へ出迎えの上官に引率されて初めて乗艦。上級兵の艦内説明を聞き、君は15連発の25ミリの射手、他補充兵2名で機銃を担当せよとの事。上級兵の機銃の説明を聞きながら、毎日補充兵共3人で操作の仕方等練習に励む。いよいよ神威も修理完了、19年大晦日、20年1月元旦の二時頃、18隻の船団を組み昭南島へと航海始まる。初めての航海で艦の揺れがひどく、船酔いもはげしく、どうなるかと心配し、ある時上級兵より「船酔いしているものに酔い止めの薬をやるから前に出て来い」、早速出て行ったら、「貴様、海軍兵士で船酔いするとはたるんでいる」といきなりピンタ4回5回、2日もしたら船酔いもおさまり、ほっとしました。

航海してから1週間位で台湾に着いた時、対空戦闘の最中、早速担当機銃に付き、始めて引き金を引き、無我夢中で敵機を狙い、4発に1発曳光弾を目標に約1時間位戦い、台湾にいれば危険との指令。香港に進行、この時18隻の艦船の半数が魚雷、空爆により沈没。香港に20年1月13日朝、配置に付いて戦闘準備、12時頃敵機山の影より水中魚雷1発、我が神威に右舷から左舷とつらぬき、遂に航行不能。幸いにして担当の機銃は甲板の上であり難をのがれ、3人とも無事でほっとしました。

15日、上官の命により「君たちは香港の陸上警備隊に」との事。ランチに乗り香港に上陸。支那人と一緒に防空壕掘りに専念。1日掘っても何尺も進まず苦労しました。味噌汁等は一切補給付かず、塩汁、バナナの木の芽が具にしての毎日。飯はひじき半、米半のむすび。服もぼろぼろに、最後は越中ふんどし一枚。幸い暑い時期でどうやら過ごされました。

時々敵のB29が高度4,000メートル位から爆弾の投下。吾々は防空壕に入り見ているだけ。対岸の九竜飛行場に3機位ありましたが空襲になると格納庫へ、この様子見たとき日本は敗戦だどつくづく感じ、全く毎日作業も身に付かない位でした。しかし我々は出来るだけ国の為につくさなければと自分にむちを打ち一生けんめいに防空壕掘りに力を入れ頑張り続けました。暑い日も続き、日々体もつかれを感じる様になりました。それでも頑張らなくてはならないと同士一同力を合わせて作業に専念中、8月15日夕方6時頃、班長より全員集合の命令あり、遂に日本は敗戦との伝言。吾々兵士一同は一晩中残念で眠れなかった。16日8時頃、アメリカ兵に引率され九竜収容所、夜は干草の編んだものを布団がわり、まくらは先丸の地下足袋。朝七時頃、引率されて種々の作業、私は幸いにして米上官の部屋の掃除、飯はひじき混じりのにぎり1個。10月30日、英軍の石炭船にて行先不明とのこと、心配している所へ佐世保着との事。全員大喜び、一夜泊まり500円の軍票いただき、11月12日生家へ。